

11. 平成日高クリニックにおける免疫細胞療法外来の経験—看護師の立場から—

増子 麗子, 金井千賀子, 松下 貴子
上野 美夏, 綿貫結輝枝, 一場由起子
土屋 孝枝, 近藤 久恵, 高山 明美
(医療法人社団日高会)

平成日高クリニック外来)

【目的】 平成日高クリニックでは、2010年6月から免疫細胞療法外来を開始した。今回は当外来の初期経験として看護師の立場から報告する。【方法】 昨年12月迄の1年半に訪れたがん患者さん119名について、看護師の問診記録及び医師の診療記録等に基づいて多角的に分析した。【結果】 免疫細胞療法を受けられた患者さんは85名であった。男性47名、女性38名：年齢は35歳～89歳(平均64歳)。進行状態は、早期癌8例、再発45名、進行癌5名、末期癌27名。がん種では、膀胱癌16名、肺癌13名、大腸癌11名、その他55名であった。家族でがんと戦う非高齢者患者さんが多かった。看護の視点から代表的症例を供覧する。【考察・まとめ】 緩和医療の対象とされるような患者さんが多かった。世の中で最も大切なものは命(場合によっては意思)である。がんの診療に於いても心に留めておきたい。治療効果の顕著な患者さんも目の当たりにしてきたが、末期がんでは効果を期待しがたくとも、様々な訴えに耳を傾ける時間を確保していることで満足度は低くなかったと感じている。今後は免疫細胞療法の至適併用時期等に関する情報の提供が必要と思われた。

〈セッションⅣ〉

座長：神沼 拓也

(群馬大学重粒子線医学研究センター)

12. 子宮頸癌放射線治療後の骨密度減少に対する経口ビスフォスネート製剤の有効性

小此木範之, 齋藤 淳一, 鈴木 義行
野田 真永, 大野 達也, 中野 隆史
(群馬大院・医・腫瘍放射線学)

【目的】 子宮頸癌放射線治療後の骨密度減少に対する経口ビスフォスネート製剤(BP)の有効性について検討した。【対象・方法】 2009年7月から2010年11月に当院で根治的放射線治療が施行された子宮頸癌症例(再発例を除く)全31例を対象とした。治療前、治療後3か月・1年の時点で、DEXA法により第2-4腰椎(L2-4:照射野外)と第5腰椎(L5:照射野内)の骨密度測定を行い、骨密度低値例に対し、骨粗鬆症ガイドラインに準じBPを投与した。【結果】 治療前と治療後1年での年齢

補正骨密度値の比較では、BP非使用群(n=22)でL2-4(p=0.03)、L5(p=0.052)とも減少したが、BP使用群(n=9)ではL2-4(p=0.90)、L5(p=0.18)とも有意な減少は認められなかった。【結語】 BPの使用により、放射線治療に伴う骨密度減少を抑制できる可能性が示唆された。

13. 乳房温存療法後の肺臓炎に関する検討

佐藤 浩央, 吉田 大作, 工藤 滋弘
樋口 啓子, 玉木 義雄

(群馬県立がんセンター 放射線科)

【目的】 乳房温存術後照射に起因する、放射線関連肺臓炎について検討する。【方法】 対象は2007年1月～2010年12月に乳房温存術後照射を行った239例。肺臓炎の評価は胸部単純写真及び胸部CTにて行った。【結果】 肺臓炎を認めたのは11例(4.6%)。Grade1: 8例(3.3%)、Grade2: 3例(1.3%)。うち1例はBOOP様肺炎。照射終了から診断までの期間は0～47週(中央値15週)。Grade1はいずれも経過観察にて改善した。Grade2のうち2例はステロイド投与、1例は対症療法にて改善した。年齢や、鎖骨上リンパ節領域照射、boost照射、内分泌療法、trastuzumab投与の有無は発症頻度に有意差を認めなかった。【結語】 肺炎発症は全体の4.6%であったが、Grade3以上の重篤な肺炎は認めなかった。

14. 肺癌の定位放射線治療による放射線肺臓炎の検討

高草木陽介, 水上 達治, 楳本 智子
佐藤 友美, 大久保 悠, 齊藤 吉弘

(埼玉県立がんセンター 放射線科)

【目的】 肺定位放射線治療による放射線肺臓炎のリスク因子について検討した。【対象】 2004年1月から2011年9月までに当院で定位放射線治療を施行した原発性肺癌は40例(男性29例、女性11例)である。【結果】 CTCAEv3.0におけるGrade(以下G)3以上の放射線肺臓炎が認められた症例は4例(10.0%)で、G3が2例、G4が1例、G5が1例であった。G3以上の肺臓炎症例4例のうち、3例で治療前のCT上、肺野に間質性陰影を認めた。両肺野のV20、両肺野の平均線量の中央値は7.7%、432cGyであった。G5の肺臓炎患者では20.0%、1230cGy、G3の肺臓炎患者では16.4%、969cGy、12.4%、725cGyと高値であり、G4の肺臓炎患者では3.6%、294cGyであった。G4の肺臓炎の患者は薬剤性間質性肺炎を合併していた。【結語】 G3以上の肺臓炎をきたした症例を紹介し、治療前の間質性陰影と肺野の照射線量について考察を試みた。